BlockWorkspaceSE（ブロックワークスペースSE、BWSE）の使い方

概要

BlockWorkspaceSE（ブロックワークスペースSE、以下「BWSE」と表します。）は、Windows版のランチャーアプリです。SEとは、Shack Edition（シャックエディション）の略です。

アプリを起動すると、デスクトップ上に、「ワークスペース」という三次元の空間が作られ、そこに「PC」や「ユーザーのホームフォルダー」などにアクセスできる「オブジェクト」を配置することができます。
また、ワークスペースには、一時的にファイルやフォルダー（以下、「ファイル等」といいます。）を放り投げて「ブロック」として表示することができます。ブロックは動かしたり、配置したり、開いたり、フォルダーを参照したりすることができます。

ブロックはあくまでもファイル等の実物ではなくあくまでモック（幻影・ハリボテ・シンボル・ダミー）です。そのため、ブロックを動かしたり消したりしても、実際のファイルが消えたり移動したりすることはありませんのでご安心ください。
ほら、誰か知らない人が作ったアプリで、ファイルの操作を行うなんて怖いじゃないですか。(^^)v
そこはWindowsエクスプローラー様に任せたいと思います。

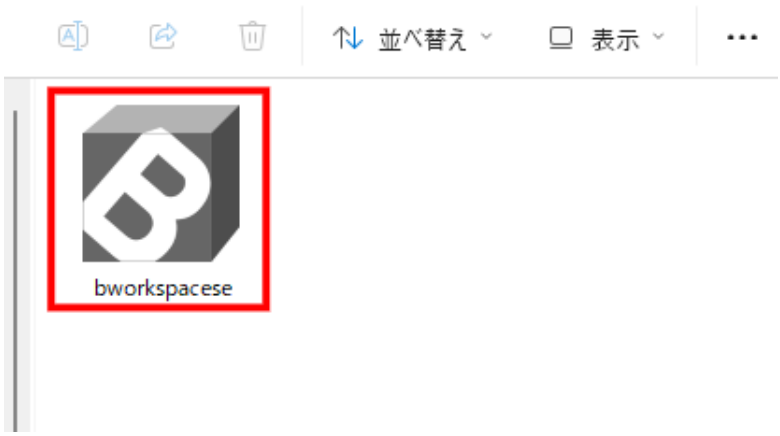
その他、メモを旗にして立てる機能があります。

快適なPC作業の一助となっていただければ幸いです。

なお、このSE（Shack Edition）は、もともと作っていたBlockWorkspace（ここでは「本家」と呼びます。）を軽量化して、機能を削ったバージョンになります。本家BlockWorkspaceでは、ワークスペースに無駄に装飾品を配置して「箱庭」みたいに遊ぶことができます。こちらもよろしければ使ってやってください！よろしくお願いします！

初めての起動

ダウンロードしたzipファイルを展開し、BWorkspaceSEフォルダー内にあるbworkspacese.exe（拡張子「.exe」は環境によっては表示されません。）をダブルクリックすることで、アプリが起動します。



Smart Screenが表示されたら･･･

環境によっては、下記のウィンドウが表示される場合があります。



この画面が表示されたら、「詳細情報」をクリックして、表示された「実行」ボタンをクリックしてください。
信用していただければ幸いです…。💦



無事起動すると、デスクトップに「PC」と「ホーム」の角丸のオブジェクトが表示されます。



画面に「PC」と「ホーム」というオブジェクトが出現！

触ってみよう！ファーストステップアップ！

ブロックの操作

ブロックを放り投げてみよう！

ではワークスペースにファイルを放り投げてみましょう。

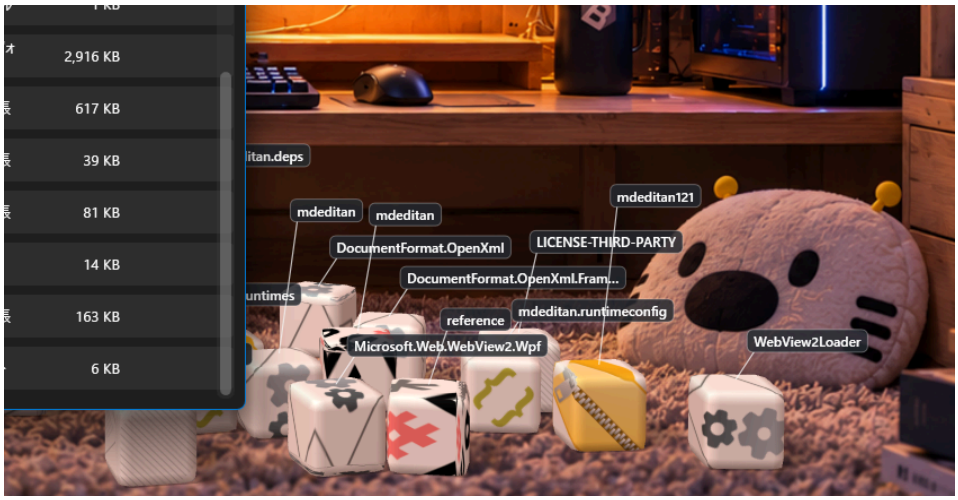
画面にはさっきのPCとホームのオブジェクト以外何もありませんが、実際にはワークスペースが広がっています。

PCかホームのオブジェクトを長押しすると、ファイル一覧が表示されますので、適当なファイル等をPCとホームの間あたりにドラッグ＆ドロップしてみてください。



画面上にファイルがブロックで表示されたと思います。これを「ブロック」と言います。概要でも書いたとおり、ブロックは、実際のファイル等ではなく、その姿を模しただけのモックです。つまり、そのブロックを放り投げて捨てても、実際のファイルが消えたりすることはありませんのでご安心ください。

注記：ファイルのコピー・移動・削除・名前の変更はエクスプローラーから行ってください。



めっちゃ出せます！

マウスでブロックを動かせば、他のブロックに衝突しながら並べ替えたりきれいに配置できたりします。やってみてください！

ちなみに、Windowsのエクスプローラーからも、同じようにドロップしてブロックを作ることができます。

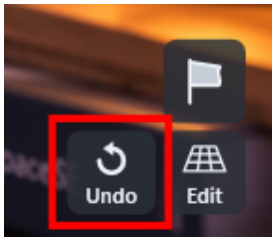
ブロックを落っことしてしまおう！

今度はブロックの消し方です。用がなくなったブロックは画面から消してしまいましょう。

消したいブロックをつかんで、画面上部や画面の端の方に放り投げてみてください。ブロックは遠く彼方に飛んで行って消えてしまうと思います。

ブロックは消えましたが、実際のファイルやフォルダーは消えませんのでご安心ください。

また、誤って消してしまったブロックは、画面右下の「Undo」をクリックすることで復活します。



ちなみに、つかんだブロックにぶつかって落っこちてしまったブロックは、自動的に元の場所に復活するようになっています。

ブロックからの起動

ブロックをダブルクリックすると、そのブロックのファイル等を開くことができます。

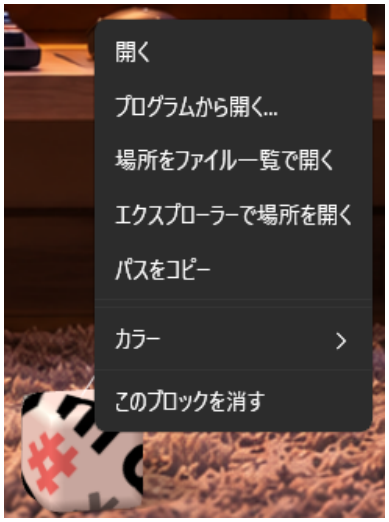
ブロックが例えばワードの文書やエクセルのブックファイルの場合は、ワードやエクセルが開き、その文書が読み込まれます。フォルダーの場合は、ファイル一覧が開きます。

ブロックからファイル一覧（ファイルの場所）を開く

ブロックを長押しすることで、ファイル等が保存されている場所のファイル一覧が開きます。

右クリックメニュー

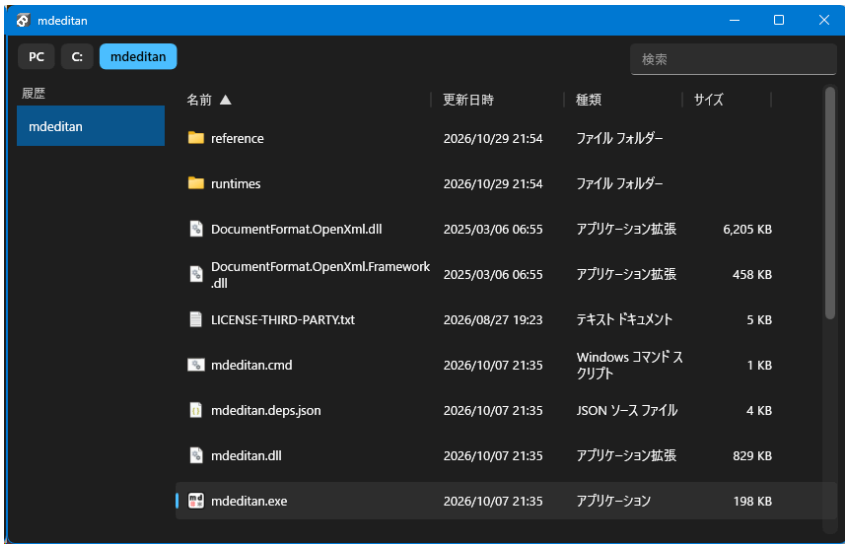
ブロックを右クリックすることで出現するメニューです。



- 開く…ブロックに関連付けられたファイル等を開く（実行）
- プログラムから開く...…開くプログラムを選択して開く（実行）
- 場所をファイル一覧で開く…ファイル等が保存されている場所をファイル一覧で表示
- エクスプローラーで場所を開く…ファイル等が保存されている場所をエクスプローラーで表示
- パスをコピー…ファイル等のフルパスをクリップボードにコピー
- カラー…ブロックの色味を変更することができます。
- このブロックを消す…ブロックを消去

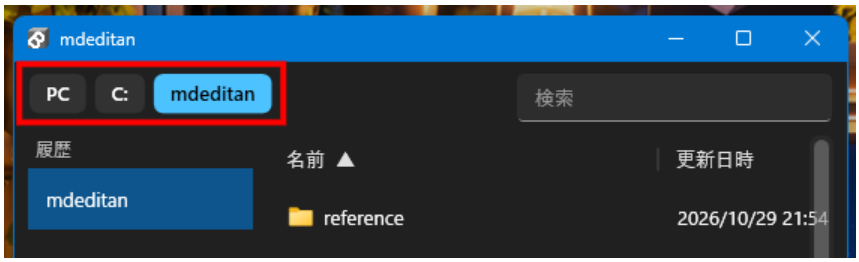
ファイル一覧の操作

このアプリには、独自のファイル一覧ウィンドウがあります。画面上のPCやホームをダブルクリックしたり、長押ししたりしたときに表示されるウィンドウです。



ファイルパス

画面上部には、現在表示されている場所のフォルダー階層が表示されます。



途中のフォルダーをクリックすることで、そのフォルダー内のファイル一覧に移動します。

長押しすることで、同じ階層のフォルダー一覧が表示されます。

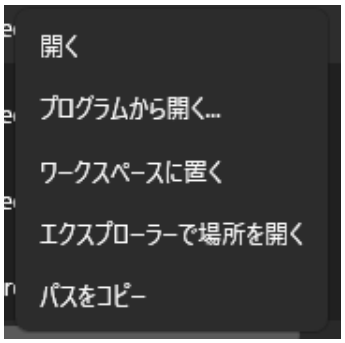
なお、このフォルダーをワークスペースにドラッグしてブロックを作り出すこともできます。

ファイル一覧

ファイル一覧は、現在のフォルダー内のファイルやフォルダーの一覧が表示されます。ファイル等をつかんでワークスペースにドラッグすることによりブロックを作ることができます。

右クリックメニュー

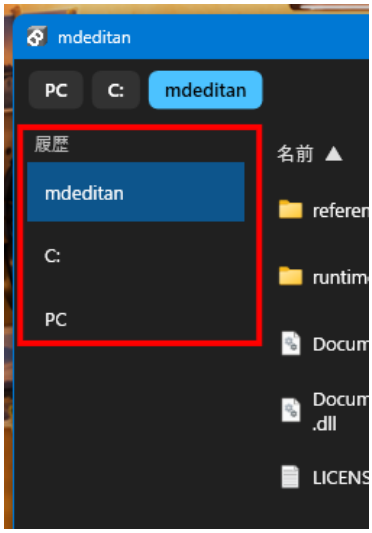
ファイル等を右クリックすることで、右クリックメニューが表示されます。



- 開く…選択したファイル等を開く（実行）
- プログラムから開く...…開くプログラムを選択して開く（実行）
- ワークスペースに置く…ワークスペースにブロックとして生成
- エクスプローラーで場所を開く…ファイル等が保存されている場所をエクスプローラーで表示
- パスをコピー…ファイル等のフルパスをクリップボードにコピー

フォルダーの履歴

画面左部分には開いているフォルダーの表示履歴が積み上げられています。（一番上が最新）



いつでも以前表示したフォルダー等に戻るときに便利です。

ファイルの検索

ファイル一覧ウィンドウの右上にある検索窓に文字列を入力することにより、ファイル名で抽出することができます。

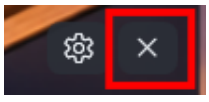
注記：サブフォルダーやファイルの中身を検索することはできません。

ファイル一覧ウィンドウの最小化・最大化・閉じる

ファイル一覧ウィンドウ右上の最小化（－のボタン）でタスクバーに最小化、最大化（□のボタン）で画面いっぱいにウィンドウを広げる、閉じるボタン（×ボタン）でウィンドウを閉じることができます。

アプリを終了する

BWSEを終了するには、画面右上の×ボタンをクリックします。



ワークスペースをカスタマイズしよう

ワークスペースには、様々な「オブジェクト」を配置することができます。「オブジェクト」とは、ブロックとは異なる静的な配置物のことです。

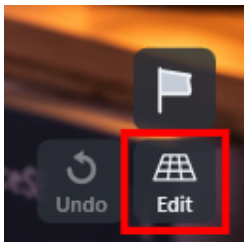
オブジェクトには、自由にファイル等を関連付けることができます。最初から画面に表示されている「PC」や「ホーム」もオブジェクトです。
関連付けられたオブジェクトは、長押しすることでファイル一覧を表示し、ダブルクリックすることで、

そのファイル等を実行することができます。
ちなみに、オブジェクトの上でマウスホイールを回すと、オブジェクトを回転することができます！

EDIT（エディット）モードに入る

オブジェクトを配置する場合は、アプリをEDIT（エディット）モードに切り替える必要があります。

画面右下にある「EDITアイコン」をクリックしてください。



このアイコンをクリックすることで、EDITモードに変わります。

画面上のワークスペースがワイヤーフレームで可視化され、EDITメニューが表示されます。



ワークスペース（カメラアングル）の操作・オブジェクトの配置

EDITモードでは、ワークスペースの視点を変更することができます。
なお、ワークスペースの大きさの変更は、コントロールパネルから行います。（後述）

EDITモードのメニューの説明です。

- 角度（見下ろし）…ワークスペースを見下ろすカメラの角度を調整できます。
- 回転…カメラを回転します。
- 拡大…カメラのズーム倍率を調整します。
- 遠近感…遠くのものは小さく、近くのものは大きくする度合いの設定です。
- 視点の位置（左右）…カメラ位置を左右に調整します。
- 視点の位置（前後）…カメラの位置を前後に調整します。
- 視点の位置（上下）…カメラの高さを調整します。

EDIT（エディット）モードの終了

EDITモードのメニューの「完了」をクリックするか、画面右下のEDITアイコンをクリックすることで、EDITモードは終了します。

オブジェクトの操作方法

EDITモード中は、オブジェクトの追加、移動、削除などの操作を行うことができます。

オブジェクトの追加（EDITモード中のみ）

ファイル一覧やエクスプローラーからファイルやフォルダーをワークスペース上にドラッグ＆ドロップ（マウスでつかんで落とす動作）をすると、その場にそのファイルやフォルダーに関連付けられたオブジェクトが生成されます。

なお、EDITモード中は、デスクトップアイコンをクリックできませんので、エクスプローラーはあらかじめ開いた状態でEDITモードに切り替えると操作がやりやすいです。

オブジェクトの操作（EDITモード中のみ）

- ワークスペース上の移動…マウスの左ボタンドラッグ
- 消去…オブジェクトを右クリックして「オブジェクトを削除」をクリック

オブジェクトの見た目の変更（通常モード・EDITモードで操作可能）

- 向きの変更（回転）…オブジェクト上でマウスホイールを回転
- 色味の変更…オブジェクトを右クリックして「カラー」から好きな色をクリック
  ※未割り当てのオブジェクトにはできません。
- ラベルの変更…オブジェクトを右クリックして「ラベルの変更」をクリック
  ※未割り当てのオブジェクトにはできません。
- ファイルやフォルダーの割り当ての変更…オブジェクトを右クリックして「割り当て」から割り当てたい種別を選択すると、ファイル選択ダイアログボックスが表示されます。
  ※ファイル一覧やエクスプローラーからすでに設置済みのオブジェクトにドラッグ＆ドロップすると、割り当てを上書きすることができます。（EDITモード中のみ）

- 割り当ての解除…オブジェクトを右クリックして「割り当ての解除」をクリックします。
- オブジェクトのサイズ変更…オブジェクトを右クリックして「サイズ」から「小・中・大」の好きなサイズをクリックします。



- オブジェクトの形の変更…オブジェクトを右クリックして「形」から「角丸の箱」、「段ボール」、「キャビネット」から選択できます。

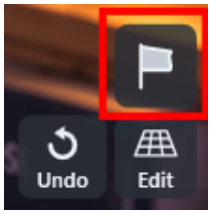


旗(メモ)の配置

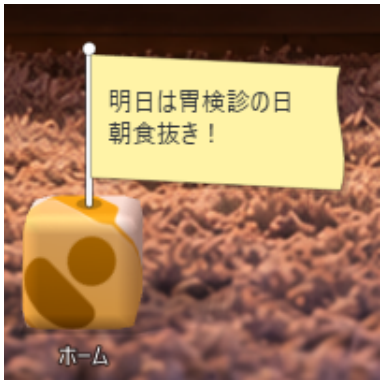
ワークスペースには、メモを書いた旗を配置することができます。

旗を建てる

画面右下にある旗をワークスペースにドラッグすることで、その位置に旗が建ちます。



立てた旗をダブルクリックすることで、旗に文字を書き込むことができます。



こんな感じに！

旗は、境界線をドラッグすることで、サイズを変更できます。

旗はアプリを終了しても次回起動時に再度表示されるので、メモ代わりにご利用ください。

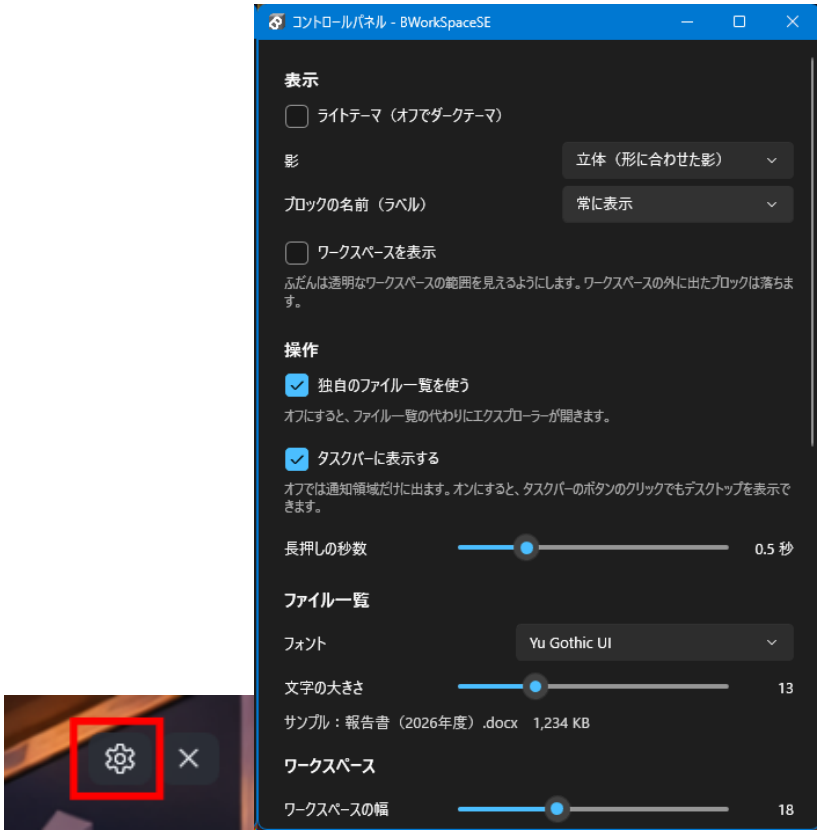
メモの削除

メモもブロックと同じようにワークスペースの外に放り出すことで、消すことができます。

なお、間違って消してしまった場合は、画面右下の「Undo」をクリックすることで復活することができます。（Undoは起動中のみ有効で、消したブロックや旗の履歴を60回まで保持します）

アプリの設定（コントロールパネル）

画面右上の歯車をクリックすることで、コントロールパネルを表示することができます。

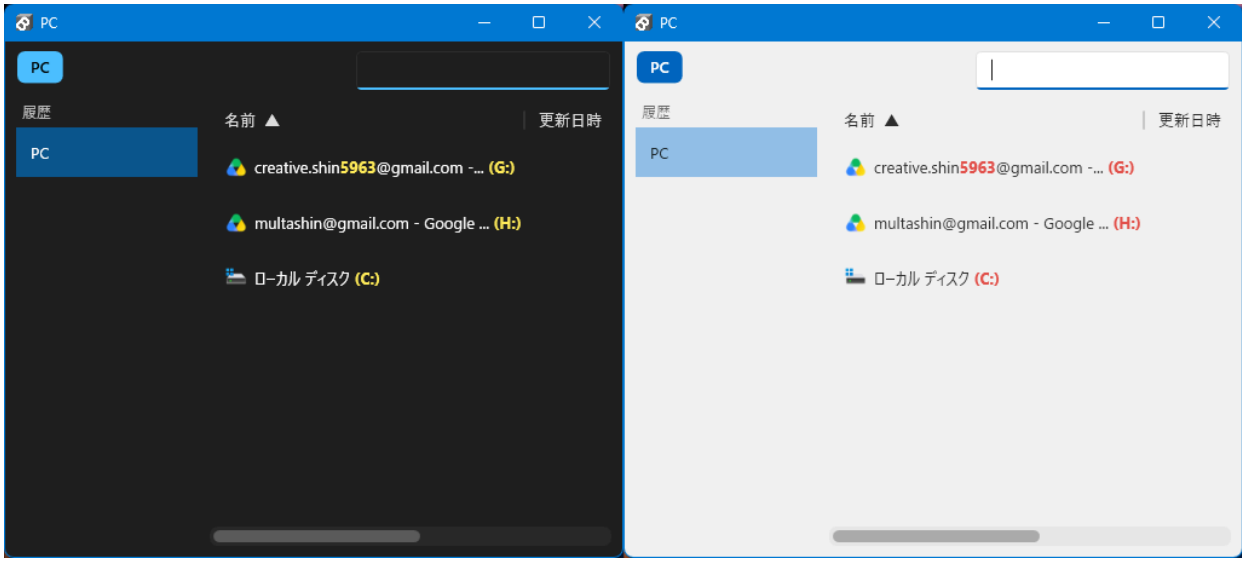


これがコントロールパネルです。アプリのバージョン情報なども確認することができます。

表示

ライトテーマ（オフでダークテーマ）（既定値：ダークテーマ）

メニューやファイル一覧の表示色のテーマを選択できます。このチェックがONの場合は明るいライトテーマ。オフにするとダークテーマになります。お好みでどうぞ。



左がダークテーマ、右がライトテーマ。

影（既定値：立体（形に合わせた影））

「なし（一番軽い）」、「シンプル（足元に丸い影）」、「立体（形に合わせた影）」の3種類から選択できます。

ブロックの名前（ラベル）（既定値：常に表示）

ブロックに引き出し線で表示されているラベルの表示方法を選択できます。

ワークスペースを表示（既定値：オフ（表示しない））

ワークスペースをうっすら表示させることができます。

操作

独自のファイル一覧を使う（既定値：オン）

ブロックやオブジェクトをダブルクリックや長押ししたときに表示されるファイル一覧を、BWSEが独自に実装する「ファイル一覧」という表示方法を使うかどうかの設定です。オフにすると、Windows エクスプローラーが表示されます。
ファイル一覧はエクスプローラーより軽いです！

タスクバーに表示する（既定値：オフ）

アプリのアイコンは既定では通知領域にのみ表示されますが、タスクバーに表示したい場合はオンにします。

長押しの秒数（既定値：0.5秒）

ブロックやオブジェクトの長押ししたときの動作が成立するまでの秒数を設定します。

ファイル一覧

フォント（既定値：Yu Gothic UI）

ファイル一覧（独自のウィンドウ）のフォントを選択できます。

文字の大きさ（既定値：13）

ファイル一覧の文字サイズを変更できます。

ワークスペース

ワークスペースの幅（既定値：18）

ワークスペースの幅のサイズを変更できます。

ワークスペースの奥行（既定値：15）

ワークスペースの奥行のサイズを変更できます。

軽さ

フレームレート上限：（既定値：30fps）

アプリのフレームレートを設定できます。2～60の間で設定できます。

ブロック・オブジェクトの縁をなめらかにする（既定値：オン）

オフにするとブロックやオブジェクトが少しギザギザになりますが、メモリが節約できます。

ワークスペースを保存・読込

ワークスペース上のオブジェクトの配置をファイルに保存することができます。

ワークスペースを読み込むと、画面上のすべてのオブジェクトが置き換わりますので、実行する際はご注意ください。

PCオブジェクトを生成／ホームオブジェクトを生成

初回起動時に表示されていたPCオブジェクトとホームオブジェクトを消してしまった後に、復活したい場合に押すボタンです。

全てのオブジェクトを初期化

アプリを初回起動したとき（PCオブジェクトとホームオブジェクトのみ）の状態に戻すボタンです。
元には戻せませんので、実行は慎重に行ってください。
※旗とワークスペースのアングルは保持されます。

アプリ設定の保存場所

本アプリの設定情報は、下記の場所に保存されます。

`%APPDATA%¥BlockWorkspaceSE¥`

- settings.json…アプリの設定（コントロールパネルの設定情報）が格納されています。
- workspace.json…ワークスペースのオブジェクトの情報が格納されています。

アプリの削除方法

アプリを削除する場合は、

- ダウンロードしたフォルダーとファイル
- 上記のアプリの保存場所のフォルダー（ `%APPDATA%¥BlockWorkspaceSE¥` ）
- ユーザーのドキュメントフォルダーにある「BlockWorkspaceSE」
  注記：ワークスペースを保存・読込する場合に作成されます。

これらを全部消すことでコンピューターから完全に削除されます。

なお、このアプリはレジストリなどは一切触っておりません。